

高山国道事務所 道路啓開訓練



【訓練参加機関】

高山国道事務所・下呂市役所・下呂土木事務所・下呂消防署・下呂警察署・中部電力(株)高山営業所

10月16日(火)下呂総合庁舎

高山国道事務所は自然災害時における道路の啓開について、関係機関との連携、手順や役割を確認するため道路啓開訓練を行いました。迅速な救助活動や復旧のため、素早い啓開作業を行えるように各機関が訓練に取り組みました。

今年は初めて下呂土木事務所及び下呂市役所と合同で訓練を行いました。下呂市では「平成30年7月豪雨」時に連続雨量250mm以上を記録し、土砂流出が発生した背景から、今回は豪雨災害を想定した訓練を行いました。

主催者挨拶

来賓挨拶・講評



高山国道事務所
野津所長

今年は、地震・台風・7月豪雨を含め、胸が痛くなるような事が多くありました。その中で、救助や復旧にあたって、非常に厳しい環境を実感したところです。

災害対策基本法の改正で、道路管理者は放置車両等を除去できる権限をいただいたことを契機に、毎年啓開訓練を行っています。

訓練を通して、皆様と課題を共有しながら、しっかりと使える制度になるよう、頑張っていきたいと思っています。



下呂市
服部市長

挨拶： 7月豪雨による災害により、市道等の至る所で崩壊があり、地域の方々にとって、本当に大きな痛手でした。今回の訓練は、このような災害に即した想定での訓練であり、当市は初めての参加となりますので、しっかり勉強させていただきます。

講評： 災害時、国・県・市や、関係機関、地域の皆様が連携して対応していく、素晴らしい訓練でした。当市もしっかりと修業し、災害に強い町作りに努めたいと思います。

講評



下呂土木事務所
飯島所長

6月下旬の道路災害により、下呂地域の広い範囲で、土砂流出により道路が寸断されました。

我々としては、常日頃の危機管理に対する備えが重要と思っています。今回の訓練に参加した皆様と一緒に、連携内容を確認し、訓練の成果を生かしながら、実際の災害時には情報共有を密にしながら、迅速に安全安心の対応に努めたいと思います。



下呂市消防本部
田口消防長

下呂消防では、災害時に倒木で道路が寸断された経験から、飛騨森林組合のご指導のもと、チェーンソー取扱講習を受け、現場で活動できるように取り組んでいます。

しかし災害が起きれば、当然皆様の協力が無ければ消防も動くことができません。今回の訓練をうけ、今後とも皆様とさらに情報共有しながら活動させていただきます。



下呂警察署
桑原署長

7月豪雨の災害時に、下呂市は孤立状態になりましたが、皆様の精力的な活動のおかげで、犠牲者はいませんでした。

今回の訓練で、人命救助や復旧等を行うために、迅速な道路啓開が必要と感じました。訓練でみつけた反省点や、関係機関の連携、それぞれの役割、作業手順等を検討し、次に備える事が大事だと思います。



高山国道事務所
太田副所長

訓練参加の皆様のご協力ありがとうございました。災害が起きる前に、十分な準備しておく必要があります。今回の訓練を今後のかてとして、対応していただきたいと思っています。

皆様の講評の中にも、訓練でみつけた反省するべき点がありましたが、しっかりと振り返り、皆様と連携して、道路管理等を進めていきたいと思っています。

道路啓開訓練の様子

【被害想定】

車両1台が土砂に巻き込まれ、立ち往生した車両数台が放置車両となった。また、電柱が倒壊しており、通行が困難になった。

豪雨により土砂崩れ発生！



警察による通行規制 及び被災現場確認



法面状況確認のため、ドローンによる調査開始。



中部電力による電力遮断確認及び電線の切断。



消防・警察による要救助者の確認。



現地対策本部を立ち上げ、関係機関が参集。



道路管理者による放置車両の手押し移動。(ゴージャッキ)



中部電力による電柱撤去。



除雪ドーザによる被災車両けん引。



消防による、ドアを切断しての要救助者救助。



除雪ドーザによる土砂の撤去。



道路管理者による路面清掃。

道路啓開完了！

道路を通行可能にし、最終的な安全確認を実施後に交通を開放します。

～道路利用者の皆様へ～

災害時は緊急車両の通行ルート確保のため、車を置いて避難する際は、出来る限り道路外に移動させて下さい。やむを得ず道路上に車を放置する際は、可能な限り以下の行動をお願いします。

- ◇道路の左側に寄せて駐車する。
- ◇エンジンを止めて、エンジンキーを車内に残す。
- ◇窓を閉め、ドアはロックしない。

平成26年度の災害対策基本法の改正により、道路管理者は必要がある場合、直接車両排除が可能となりました。ご理解・ご協力のほど宜しくお願いします。

第8回目の今回は、(一社)飛騨・高山観光コンベンション協会 堀会長にインタビューを行いました。

「日帰り2時間圏・宿泊4時間圏、このエリアをどう広げ、活用するかが鍵」

- ・飛騨地域、高山にとって観光は地域経済の大黒柱。高山での観光関係の経済規模は約1000億、農業が約220億、木工業が約130億と言われている。高山市によると、観光の経済波及効果は直接消費の2.21倍と言われており、地域経済にとって2000億以上の影響を与える産業が観光である。
- ・このように観光が主たる産業たり得ているのは、道路の恩恵が非常に大きい。関東への扉を開いた安房峠トンネル、高速道路ネットワークである東海北陸道、中部縦貫道の高山ICまでの供用は、現在の観光客460万人、外国人宿泊客51万人の実現にはなくてはならなかったと考えている。
- ・しかし今までの取り組みだけでは、今後少子化・高齢化が想定される飛騨地域にとって十分ではない。
- ・観光のトレンドとして、今後は滞在型がより拡大していくものと考えている。現在の日本では2泊3日がスタンダードであるが、諸外国ではもう少し長い。荷物を持ってパックツアーのバスで決まったコースを回るのではなく、ある場所に滞在し、荷物を置いて散策したり、ドライブしたり、バス等で別の観光地へ往復するなど、身軽に手軽に個人のニーズに合わせて滞在地からの観光を楽しむ様になっていくのではないかな。
- ・このトレンドを踏まえると、これまでデメリットであった四方を山に囲まれた飛騨の環境が逆にメリットになってくる。一般的に日帰り観光のエリアとしては、移動時間が片道2時間だと言われている。高山から東西南北の著名な観光地、金沢、富山、松本・上高地、岐阜県内の白川郷、下呂、郡上といった多くの観光地には、片道2時間程度で行くことが可能である。
- ・この様に、四方を囲まれている事は滞在型観光の拠点としては逆に魅力的であり、この環境を活かし、今後高山を滞在型観光の中心地「ハブ」にしていくべきと考えている。
- ・「ハブ」となるには、周辺観光地への移動手段の確保が重要である。その点で、南北方向しかない鉄道だけでは困難であり、東西南北各方向に移動可能な道路による自動車、バスによる移動の確保が必要不可欠である。
- ・高山から周辺観光地への移動にあたり、飛騨地域の道路が、安全で安心に、確実に活用できることが非常に重要であり、雨や雪などの災害に強い道路整備が期待される場所である。
- ・また別の視点として、高山を滞在地、「ハブ」として選んでもらうためには、その場所に到着しやすいかが重要。関東圏において観光を考えるにあたり、宿泊を伴う観光地の選択はそこまでの移動時間が4時間以内であることが一つの目安とされている。
- ・現在、関東・東京から高山までの移動時間は4時間では厳しい。更に、松本ICを下りてから国道158号の道程は険しく、関東方面のお客様から「二度と車では来ない」と言われた事が印象的であった。
- ・高山から松本までの中部縦貫道は、未だ道半ばであるが、これが完成すれば関東までの時間距離を大きく縮め4時間圏となる。これまで関東の方々にとって滞在地として選択肢に挙がりにくかった高山が、選択肢たり得ることとなり、高山にとって非常に大きなマーケットが広がることになる。
- ・このように、飛騨・高山へ4時間程度で到着できるエリアの拡大と、高山から2時間程度で移動できる場所への安定的な道路交通の確保は、今後の飛騨・高山地域の観光、そして地域経済にとって必要不可欠である。



堀コンベンション協会会長



～ 「2018親子トンネル見学バスツアー」の開催 ～ 中部縦貫上野トンネル工事現場を親子で見学

10月13日(土)、高山国道事務所は、NEXCO中日本松本保全・サービスセンターと協同で、中部縦貫自動車道「上野トンネル(仮称)」の工事現場と供用中の「安房トンネル(避難坑)」を見学する親子17組(41名)によるバスツアーを開催しました。



トンネル壁面をスクリーンにしてトンネル工事の作業を説明



参加者の感想

- ・建設中のトンネルはめったに見れない。初めて見れてよかった。
- ・トンネルを来年夏休みの宿題のテーマにしようかと思う。
- ・ビデオを見てトンネル建設のためには幾つもの工程があることがわかった。
- ・ロックボルト挿入を人力で行っており、まだまだ人の手で行っている作業があることを知りました。

地元中学生が当事務所へ 職場体験学習に来ました

高山市立丹生川中学校の生徒（2年生）が、9月25日～27日の3日間、当事務所で職場体験学習を行いました。この3日間で管内の主要な現場見学、災害対策用機械やドローンの操作、除雪車両の見学・乗車などを体験をしてもらいました。

今回の体験から、国土交通省や土木関係の仕事について興味を持ってもらえたのではないのでしょうか。

下呂維持出張所管内 防災工事現場



中部縦貫自動車道（高山IC～丹生川IC（仮称））



資材運搬用モノレール乗車体験



除雪用機械の乗車体験



事務所玄関前にて

災害対策用機械（照明車）の操作体験



事務所1Fの道路情報センターにて24時間体制によるモニター監視の説明を受ける



ドローンの操作体験

飛騨高山高校の2年生生徒によるバッタ捕獲調査 ～高山西ICビオトープ“飛騨の森再生”における環境学習～

台風一過の平成30年10月1日(月)に飛騨高山高校環境科学科2年生6名が参加して、ビオトープ内において秋に見られるバッタの捕獲調査を行いました。

バッタの仲間は、昆虫の中でも生態や生息環境が比較的良好に知られています。海岸から高山まで幅広く生息していますが、中でも草地に生息する種が多く、種によって好む草原のタイプ(湿った場所、乾燥した場所、草丈が深い場所、地面が見える場所)が異なります。さらに樹林に適応した種もいることから、環境を指標する生物として、環境の状況の評価する材料として使われることがあります。

今回の学習では、バッタの採集方法を学ぶとともに、確認できたバッタを用いて現在のビオトープの草地や林縁部の環境状況について、簡単な評価を行いました。



【バッタの採集状況】



【バッタの採集状況】



【採集したバッタの分類】

約1時間調査し、採集したバッタを色や腹部先端の形状等で判別し、コバネイナゴやヒナバッタ、クルマバッタモドキなど5種126個体を確認しました。他にもコオロギの仲間を3種6個体確認しました。

ビオトープで見られるバッタ

平成16年11月の完成以降、平成17～21年と平成26年(整備後10年経過)に生物のモニタリング調査を行っています。調査により、ビオトープでは現在までに計11種のバッタが確認されています(日本国内では119種、岐阜県内では37種(ともに平成18年時点)確認)。



コバネイナゴ



イナゴモドキ

バッタとは

バッタとは、バッタ目というグループのうちバッタ亜目に該当する昆虫です。同じバッタ目には他にコオロギ亜目(キリギリスやコオロギの仲間)があります。



クルマバッタモドキ



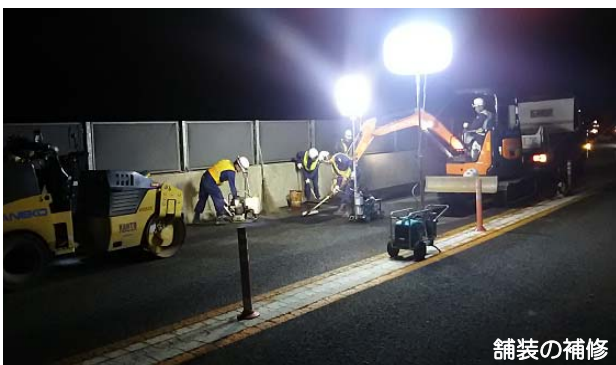
ヒナバッタ

確認種の中にはコバネイナゴのように草丈が高い草地を好む種や、クルマバッタモドキのように草丈が低い開けた草地を好む種が多く見られました。これはビオトープ内の草地は草刈りを年1回しか実施せず草丈をある程度高くするエリアと、草刈りを年2回実施し草丈の成長を抑えるエリアに分けて管理していることから生じており、草地の環境は管理内容に沿って比較的良好な状態が維持されていると評価できます。

またビオトープ内に生息するバッタの中ではコバネイナゴが多く見られる傾向があり、今回も確認種の中で最も多く(126個体中104個体)確認されました。コバネイナゴは主にイネ科植物を食べ、湿った草地を好みます。今回の確認個体数は過去の生徒達の調査(H27:100個体、H28:91個体、H29:未実施)と同様であったことから、ビオトープの草地環境は比較的良好な状態で安定していると評価できます。

中部縦貫道・高山国府BP 夜間集中工事終わりました！

9月25日からの4夜間にて、中部縦貫自動車道と高山国府バイパスを通行止めにして様々な点検や補修工事を行いました。1年に1度の大作業でしたが、本年も夜間の全面通行止めにご協力いただき、誠にありがとうございました。



舗装の補修



ジェットファンの交換



橋の点検



トンネル設備の点検



斜面の補修



今回の集中工事で使用した車

人間と同じで道路も年を重ねると色々なメンテナンスが必要になります。この4夜間で少しでも道路の安全が復旧できる様に、15の会社を現場に投入して20以上の作業（施設や設備の点検や交換、道路の修繕や補修など）を4夜間に集中して行いました。

地味できつい！トンネルのゴミ拾い

5つのトンネル（計11.5km）のゴミ拾いを毎年行っています。



トンネル内の水路に落ちたゴミを作業員がひたすら歩いて拾います。拾い終わると大きなゴミ袋が30袋以上ありました。毎年苦勞している作業の一つです。

3年ぶり！トンネルの壁面清掃

高山国府トンネルの壁面パネルを3年ぶりに清掃しました。



清掃前



清掃後

機械で行いますが、意外に手作業での清掃も多くて苦勞しました。



夜間 遮断機操作訓練 実施

9月27日
中部縦貫自動車道
高山国府バイパス

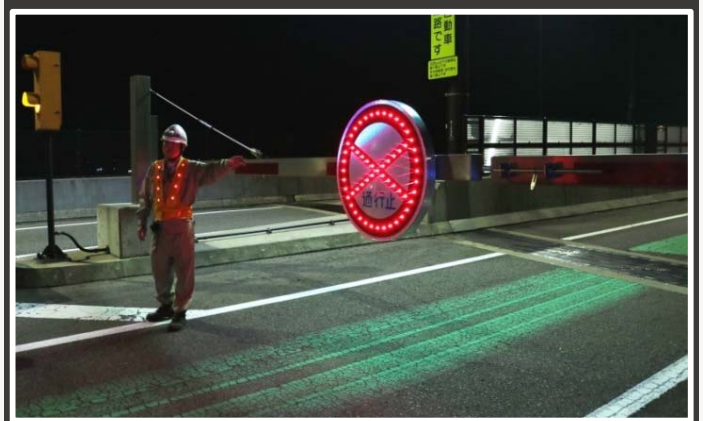
夜間での操作訓練

高山国道事務所では、『平成30年7月豪雨』『台風21号』などで実際に通行規制を行いました。

そのような災害時でも自動車専用道路においても安全かつ迅速な通行規制が行えるよう、夜間集中工事により自動車専用道路が通行止を行っている時期に合わせて、飛騨三協防災対策協議会と合同で訓練を行いました。

3種類の交通遮断機の写真→
上から、

- ・ステンレスゲート
- ・伸縮式遮断機
- ・手動式遮断機



☺ 意外と暗い、夜の遮断機

皆さんは夜に遮断機の近くを通ったことはありますか？場所によっては、暗くて手元が見えません。

しかし、暗いからといって遮断機操作に手間取ると安全な通行規制ができません。

そのため、夜においても迅速な遮断機操作を可能とするために、夜間での訓練が重要となります。

実際の夜間通行規制の様子→

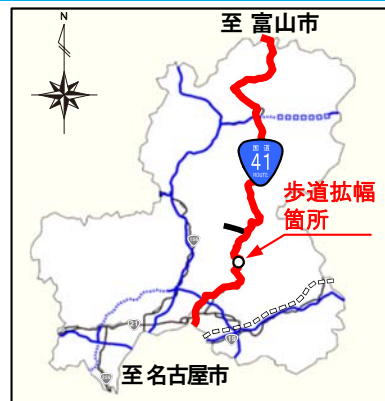
国道41号下呂市金山町井尻歩道拡幅工事が完成

～通学路の安全性が向上、最大で約2倍に拡幅！～

下呂市金山町井尻地内で、歩道の拡幅工事が完成しました。
この区間は通学路に指定されており、集落からバス停への利用者も
多いことから、歩道拡幅の要望が寄せられていました。

今回の工事により、歩道幅が最も狭かった場所では**従来の約2倍の
幅員に拡幅**され、利用者が安心して利用できる歩道に生まれ変わりました。

工事期間中においては、工事規制などにご理解・ご協力を頂き、あり
がとうございました。



【地域の声】

整備前の歩道は段差が有り、つまずいて転びそうになった
事がありました。整備後は平らな歩道になったおかげで、
歩きやすくなり、つまずく心配もなくなりました。



(下呂市住民)

以前の歩道は防護柵が無く、幅が狭くなっ
ている箇所もあり、危なく感じていました。拡
幅整備された後は防護柵も付き、児童が
安全に登下校できるようになりました。



(学校関係者)